



子育てサロン

年に2回開成小学校でも開催。
小学生と親子がふれあう。



高齢祝賀会

札幌市とまちづくりの連携協定を結ぶ北大落語研究会の学生による寄席を開催。
身体の不自由な高齢者はタクシーで送迎する。



もちつき大会

今年は3カ所で開催し、総勢413人が参加。
住民の発案で獅子舞も初登場した。



協議会の話し合い

住民同士で議論しながら、さまざまなアイデアを出し合う。



地引き網体験

石狩浜で漁師と地引き網漁を体験。子どもに一番人気の行事で、今年は122人が参加。

元町地区の概況

- ・人口 26,450人
- ・世帯 14,043世帯
- ・高齢化率 17.5%
(平成22年7月1日現在)



元町まちづくりセンター



平成20年10月、市内で初めて住民による自主運営を開始。

運営主体元町まちづくり協議会。事業は、3つの部会(住みよいまちづくり、子ども及び青少年、高齢者及び福祉)で企画。

元町のビジョン「お年寄りが笑顔で暮らせるまち」「子どもたちの元気な声がひびくまち」「いつまでも暮らしたいと思えるまち」

所在地東区北20東20 ☎781-5375

島田 「元町をどんなまちにしたいか」と話し合いを続ける中で、まちのためにならやってみようと連帯感が出てきました。そして、「地域の自立と共生で実現する、ふれあいのある安心・安全なまちづくり」をテーマに元町のビジョンを策定。平成二十一年に、町内会や商工会、学校、福祉関係など地域の七十四団体で「元町まちづくり協議会」を立ち上げ、自主運営をスタートしたんです。

星 立ち上げ前後は、協力を求めて地域を回り、さらに会議の連続で。忙しかったですね。

住民がまちセンの職員となり運営しているのですね。

星 わたしを含め元町の住民五人で切り盛りしています。市から自主運営のための経費



元町まちセン事務局長
ほし まさひろ
星 正博
さん

長年、町内会活動に携わり、自主運営開始時から事務局長を務める。

にできるか話し合います。

星 日ごろから子どもと接し、専門的な知識を持っている児童会館や子ども会の人も参加しているので、アイデアが次々に出てくるんですよ。

島田 これまで、地域のことは連合町内会の執行部だけで決めることが多かったのです。しかし、協議会ができてからは、そこでいろいろな組織の人と情報交換ができ、住民のニーズに応える活動ができてきたと感じています。

協議会ができたことで、地域内の連携が深まり、よい効

住民の力でまちが変わる

元町の例からも、さまざまな住民が力を出し合い、協力してまちづくりに取り組むことで、地域はより暮らしやすく豊かになっていくことが分かります。こうした市民自らが取り組むまちづくりがさらに広がっていくよう、市はこれからも支援を続けていきます。

自分たちもやりましよう」と提案してくることも多いですね。

星 住民が平等に恩恵を受けられるようになったのも良い点です。元町には二十四の町内会がありますが、世帯数は大小さまざま。例えば、もちつき大会は大きい町内会ではやっていますが、小さい町内会では人もお金も足りず開催できなかったのです。昨年からは協議会主体で開催することで、小さな町内会の人も参加できるようになりました。地引き網体験などほかの行事も、参加者が元町全体に広がり、大変喜ばれています。

島田 「まちを良くしよう、元町のみんなに喜んでもらう」という目的に向かって、地域みんなが力を合わせて取り組む。そうした本来のまちづくりが実践できてきたと感じています。